

# 21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部  
発行者：亀田 泰武  
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当  
〒171-0011 東京都豊島区目白2-1-1  
URL <http://www.21water.jp/>  
E-mail [info1@21water.jp](mailto:info1@21water.jp)

第25号 2012年11月30日号

## —— ゴルフ場の「格式」はトイレで決まる！ ——

理事 巽 良雄

下手なゴルフですが、小生は、誰とでも誘われるままにいろんなゴルフ場に行って楽しんでいます。そこで、クラブハウスの玄関に入ると、まずそのゴルフ場の格の違いが読みとれます。

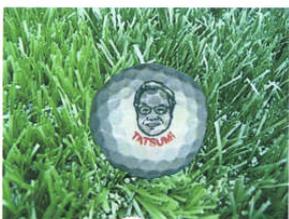


先日、学生時代の同期の連中と福岡のゴルフ場に行ったのですが、その時、もっとわかったのがコースへ出た後、コース内のトイレによる「格付」がありました。



すなわち、そのゴルフ場ではコース内のトイレが非常に整備されていて、男女の別はもちろん、大は温水洗浄便座（ウォシュレット？）付きで、便座が暖められていて、手洗い後の紙も用意され、設備が完璧でした。おかげで、すがすがしい気分プレーができました。（※ウォシュレットはTOTOの商品名だそうです。）

話しはちょっと変わりますが、誕生日のお祝いと言ってゴ



ルフボールに小生の似顔を印刷したものを彼女（下水道界で一番背がスラリと高いかな？）からプレゼントされました エヘヘ……。

ゴルフをやったことのある方は判ると思いますが、我々素人のやるゴルフは、一般に「6インチOK」、すなわち「6インチ動かして良い。」と言う、ローカルルールを適用しています。

誕生日プレゼントのゴルフボールを早速使ってみました、その時のルールは、「ノータッチ、OKなし。」でした。

2打目に打つときに自分の顔が打つ面に向いている時は、自分の顔を思いっきり打つことになるので、何だか変な感じでした。

「望月さんが、オレのボールを打つなら気持ち良いでショーがアハハ……？」

その時の大会はおかげさまでブービーでした。

ゴルフは、「明るく！ 楽しく！ 元気よく！」をモットーにプレーしています。

## 2012年度活動報告

理事 佐藤和明

### 秋の研究集会「21世紀の消化技術を考える」報告

資源循環、創エネの観点から、汚泥のメタン発酵、消化技術の果たす役割に大きく注目が集まっている。汚泥消化技術が21世紀の課題についてどのように対処していけるのか、本年新しくまとめられたJ S技術評価書のエッセンスを紹介いただくとともに、消化先進都市の事例を踏まえながら議論を深めていただいた。

最初の発表は、J S技術戦略部の野村部長さんによる「嫌気性消化プロセスの技術評価について」。まず話題の再生可能エネル



ギーの固定価格買取制度の紹介、続いて、J Sの技術評価で検討された「熱改質高効率嫌気性消化システム」「担体充填式高速メタン発酵システム」の研究成果が発表された。野村部長さんは急遽所用で総合討議まで在席できなくなったため、講演後だけに

質疑応答、2相消化法の実用化、最初沈殿池の効率改善とガス発生量の関係などについて質疑応答が行われた。

2番目、山形市浄化センター奥出所長さんからは、「山形市における、下水資源の有効利用」の発表、昭和40年の稼動以来、コンポストならびに消化ガス発電の導入経緯が紹介された。昭和63年に導入したガスエンジンから現在では燃料電池に切り替えが行われており、水処理の省エネ運転を前提とすると、ガス発電による電力回収率は70%に達する見込みである。

最後は大阪市下水道河川部の中平水質管理課長さんによる「大阪市における汚泥消化技術と水の高度処理」の発表。汚泥を焼却溶融することを前提として、汚泥処理システムの最適化の検討を行った結果、高温・高濃度消化プロセスを介して、消化汚泥を集約することが最適であるという答えを得た経過が紹介された。消化脱離液返流水のCOD、アンモニア性窒素対策が課題となるが、アンモニアはアナモックス細菌を用いた新技術処理法に期待が掛けられている。



総合討議では、発電電力の需給調整、消化槽の堆積問題、返流固形物負荷問題、ディスプレイ導入、固定買取制度の実際、燃料電池の性能、

消化プロセス普及の課題など、広範な観点から質疑応答が行われた。以上の発表概要、総合討議についてはHPから参照できます。

今回の研究集会は人気が高く、定員にすぐ達してしまい、参加をお断りする事態も出てしまった。再び同様なテーマで研究集会を開催するか、消化ガス発電の基礎ということで出前講座的なことを考えるか、現在思案中です。

## 会員だより

### ロサンゼルス見聞録その13

ロサンゼルス沿岸部の水質事情（1）

内田信一郎

ロサンゼルス地域の海岸は海水浴場銀座でロサンゼルス郡、オレンジ郡からサンディエゴ郡までの約400kmの海岸はサンタモニカ、マンハッタンビーチ、レロンドビーチ、ロングビーチ、ハンチントンビーチ、ニューポートビーチ、サンクレメンテ等、

有名な海水浴場が連なっている。水泳シーズンは海岸、駐車場及びホテルも大混雑する。



愛犬家が犬を泳がすドッグビーチもある。

この地域の風は殆どが西からの海風で午前中は雲が発生しやすいが、午前10時頃から空はカリフォルニアブルーの快晴となって海水浴日和となる。

この付近の海岸は比較的遠浅の海岸が多く波が大きくなるのでハンチントンビーチはサーフィンの発祥地として有名で、サーフィンの世界大会がここで開催される。サーフィンは夏のものと思っていたが、サーフィンの愛好家は冬でもウエットスーツでサーフィンを夕方まで楽しんでいる光景に出会う。



夏にロサンゼルスからの帰国時の機窓からサンタモニカ湾からサンタバーバラ郡の海岸沿いに延々と続く赤潮を見たことがある。また夏季には時々大腸菌が海水浴の基準を超えるので海水浴禁止の立て札が出るそうであるが、この禁止地域は同じ場所周辺である事が多いらしい。

これらの海岸に流入する水質汚濁源は下水処理水等が考えられるが、これらの海水浴の水質は如何なもので、またその対策はどうなっているのだろうか。

1つ目の水質汚濁源は下水処理水が考えられる。上記地域ではマリンスポーツ等が盛んであることを考慮して下水処理水は海洋放流管で海岸から5～8km沖で海面下60～100mの海底に放流されている。下水処理水が海洋放流管から水温の逆転現象で上昇して沿岸部に漂着する確率は低いことがモニタリング調査から判明し、下水処理水が汚濁源である事は少ない。水質調査のモニタリングは沿岸部の自治体が連携してきめ細かく平面的及び垂直的に固定点を定め毎週実施している。分析項目及び頻度から水質分析費用は膨大なものである。海水浴客は観光資源

であるために州、郡及び各自治体でこのように水質管理に膨大な予算を組んで対応している。

## 酔童感話 第18話 一備えあれば憂いなし「防災訓練」

伊達萩丸

3月11日東日本大震災発生。以降も、東北地方では震度4程度の地震が頻繁に発生し続けている。

萩丸のマンションは一町内会。そこで、町内会で11月11日に防災訓練を行った。主に地震後の火災の発生に対する訓練だ。

1)地震発生時に全てのエレベータが直近階で停止・ドアが開く。安全確認後階段を利用し、中庭に避難。2)家の中の人は、転倒・落下する家具類に注意。地震が収まり安全確認後、階段使用し、同上へ避難。3)階段使用出来ない人達は、隣近所の人に声をかけ避難。4)避難時は、「避難済」の札をドアに磁石で貼り付ける。



次に消火。まず2居住区に1台の割合で、粉末型消火器が廊下に設置。基本は「出口を背中にし、逃げる方向を確保し、火元に噴射」。消火粉散布による視界不良で、逃げ遅れがあるとの事だ。次に、消火栓訓練。萩丸たち

男性が綿密に行った。消火栓は大体5居住区に1か所の割合で設置。消火栓に15mのホース3本+ノズルがある。

わがマンションは、「乾式(パイプ)」消火栓。常時は「消火栓までのパイプが空(水が無い)」。従いパイプ中の溜まり水による赤さび等で、消火栓の不具合が生じない形だ。消火栓の操作に最低3名必要。当初は水



栓に15mのホース+ノズルが装着。しかし、それで火元に届かない場合、ラックに収納されているホースをつなぎ合わせ、ホースの延長作業をする。1)まず「ノズル放水者」+「中間指示者」+「水栓担当者」に分担。2)火元まで距離不足時は、水栓担当が水栓のホースを外し、2・3本目と接続、火元に到達した時点

で、中間者がホースの折れが無い様にし、水栓接続+開弁。この2)の作業が「慌てると出来ない」ので、ワンタッチ脱着を皆で練習。ホース確認後、消火作業ボタンを押す。高架水槽式なので、水槽から一気に水がその水栓まで流下、噴水する。「消火作業ボタン」と連動し、「BTT 駆動消火用ポンプ」が「高架水槽に水供給」。従い火災時の最大放水量は単純に「高架水槽」+「受水槽」分。これだけあれば、3区画程度の大火事でも、大概鎮火可能との事。最後に訓練を指導して頂いた消防所長より講評。最近は「冬だから火事が多い」という事は無いそうだ。「電気暖房の普及」によるらしい。現在の火災原因は、1:放火、2:天ぷら、3:寝煙草。また挿放しコンセントからの埃発火も多いとの事。放火は防ぎ様が無いが、他件の発生は、諸兄も注意されたい。

## 編集幹事のあと整理

- 巻頭文は異理事の「ゴルフ場のトイレの話」。文中「下水道界で一番背の高い彼女」と「望月さん」なるプライベート部分がありました。それを理由に編集幹事が検閲をすることは一切ありません。特定化は読者にお任せします。
- 10月12日開催の研究集会「21世紀の消化技術を考える」の報告文を佐藤理事からいただき掲載しました。内容は別として、参加登録開始後、高い人気で、短時日で満員に達し、締め切りにせざるを得なかったことの説明があります。申し込み順ですので、今後、人気が予想される場合は、早めの登録をいただくことしかありません。
- 会員だよりの連載もの、内田会員のロサンゼルスシリーズは13回目で、下水処理水の海洋放流管の沿岸たとえば海水浴場への影響が微少であることの説明もあります。
- 同じく齋藤会員(伊達萩丸、第18話)は、防災訓練の消火器と消火栓の使い方。大震災から二年も経たない仙台での訓練です。さぞや真剣だったことでしょう。
- 会員だよりのコーナーへの投稿を歓迎します。投稿時期はいつでも。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月